

消費税率引上げ後の消費動向等 について（5月第3週）

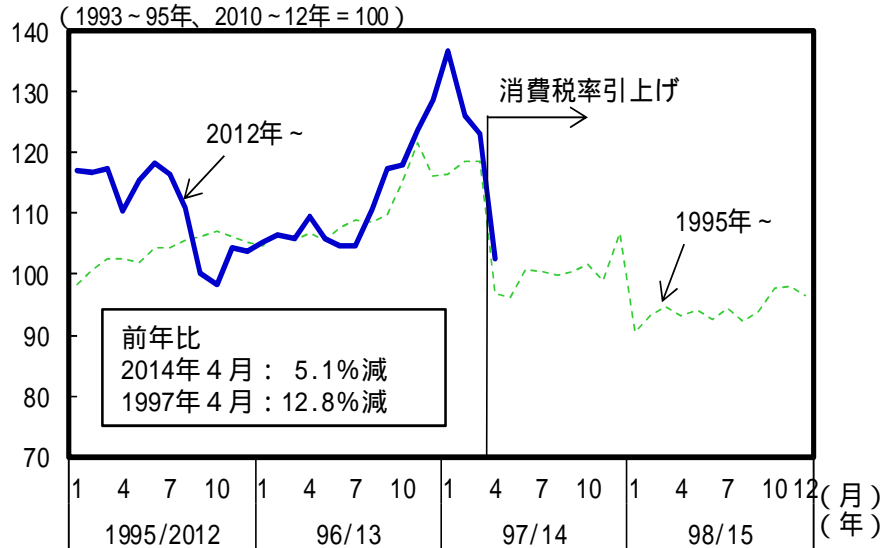
平成26年5月23日

内閣府

自動車・家電販売の動向

自動車販売は、受注残の下支えもあって、4月は前年比で約5%減にとどまった。ただし、足下の受注は弱いので、先行きは慎重にみる必要がある。

新車販売台数（含軽）（1997年頃との比較）



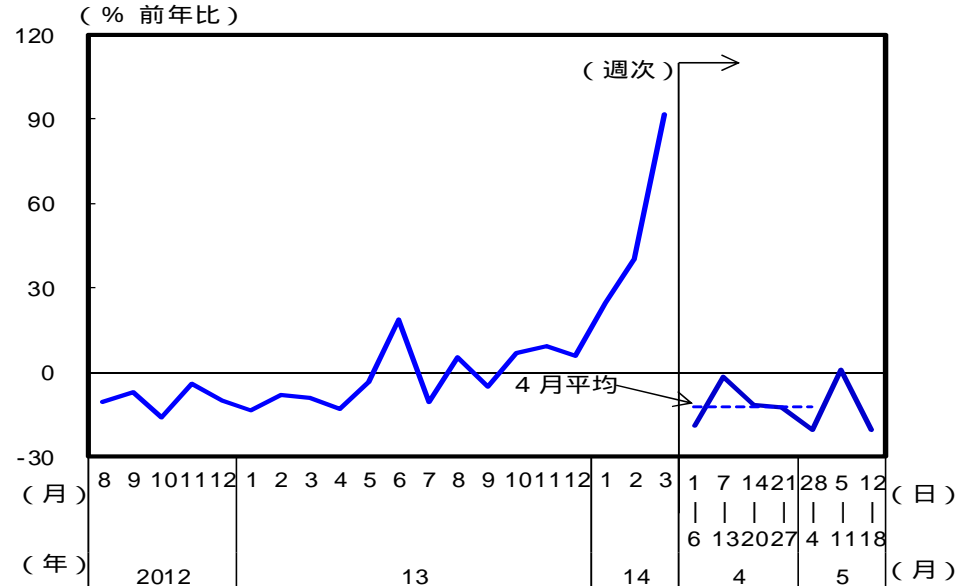
(備考) 1. 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会により作成。
2. 内閣府による季節調整値を指数化したもの。

自動車販売台数（除く軽自動車、登録ベース）は、5月第3週では、前年比2割程度減となった。受注残がはけた可能性もあり、今後も同程度の前年比の水準で推移するのではないかと見られる。いずれにせよ、先週から状況が大きく変わったとはみていない。
【業界団体A】

軽自動車の販売台数（届出ベース）は、5月第3週までの累計は、稼働日が前年より少ないため、低めの数字となっているが、第3週のマイナス幅は前週より縮小した。5月以降も、受注残は相当程度の下支えとなることが見込まれるため、月末時点では、現時点ほど低い数字にはならないのではないかと見られる。
【業界団体B】

主要5品目の家電販売は、5月第3週では、白物家電の売れ行きが不調だったこともあり、前年比20%程度減。

家電販売金額（家電量販店主要5品目）（税抜き）



(備考) 1. GfKジャパン（全国の有力家電量販店販売実績を調査・集計）により内閣府作成。
2. テレビ、エアコン、冷蔵庫、パソコン、携帯電話の5品目の合計。税抜き価格ベース。
3. 主要5品目の販売状況の集計値であるため、2014年3月までは、前年比が高めに出る傾向があった。
4. 2014年4月第1週は、駆け込み需要が大きく現れやすい3月31日が月曜に当たるため、その影響を除いて前年比を算出している。

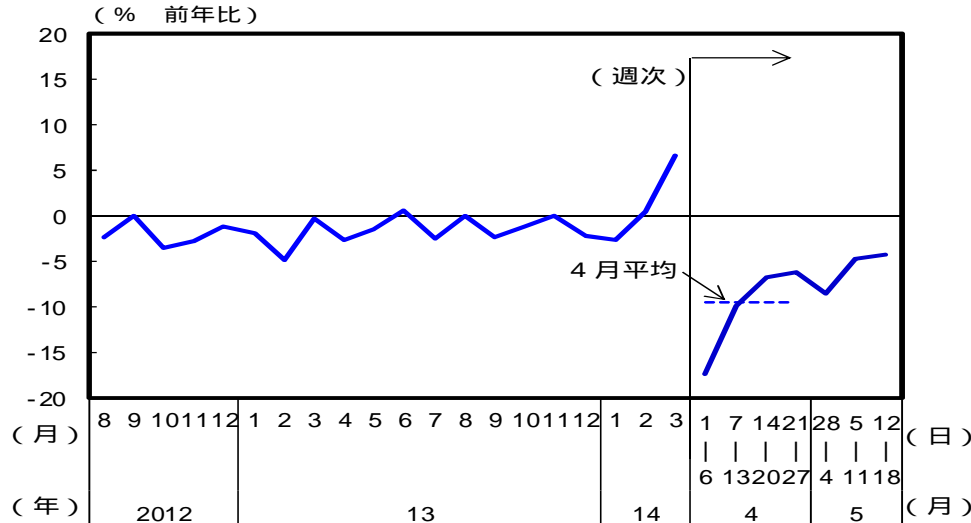
5月第3週は、前週までがGWだったこともあり、前週よりも悪化。全カテゴリーで見ると、前年比2割弱程度の減少となった。品目別では、GWに売れた分、エアコンや冷蔵庫など大型の白物家電の前年比マイナス幅が拡大した。主要5品目以外では、白物家電ほど悪化しているものはない。
【市場アナリスト】

5月第3週は、前年比15%程度減となった。GW期間よりは悪化したものの、4月よりは改善している。
【家電量販店】

飲食料品・百貨店・サービス販売の動向

飲食料品は、5月第3週では、前年比約4%減と先週から前年比マイナス幅が縮小。一部には、反動減に反転の兆しがみられる、との声も聞かれる。

飲食料品（除く生鮮食品）販売金額（スーパー）
（税抜き）



- (備考) 1. KSP（全国の食品スーパーマーケット販売実績を調査・集計）により作成。
2. 加工食品、飲料・酒類、菓子類の3品目の合計。税抜き価格ベース。
3. 既存店ベースのため、前年比が低めに出る傾向がある。
4. 2014年4月第1週は、駆け込み需要が大きく現れやすい3月31日が月曜に当たるため、その影響を除いて前年比を算出している。
5. 5月12日～18日のデータは、速報値。

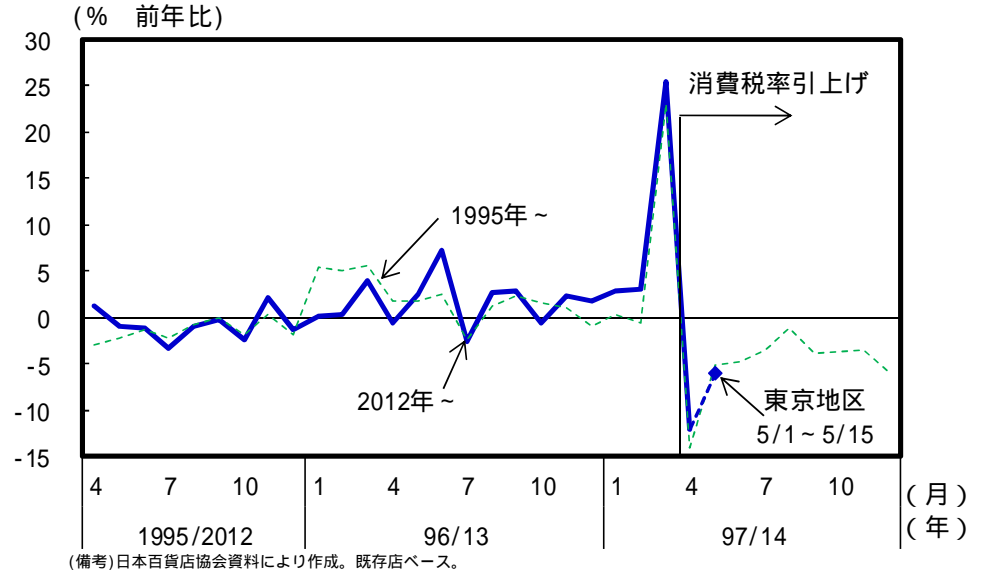
5月第3週は先週より前年比プラス幅がやや拡大した。全体で前年比プラスが続いているほか、お米のマイナス幅も前週よりさらに縮小するなど、反動減に反転の兆しがみられる。
【食品スーパー】

サービス消費は、旅行は、駆け込み需要の反動減もあり4月には減少も、5月以降は堅調に推移するものとみられる。外食は、5月第3週も底堅く推移。

4月の新メニューが奏功し、引き続き前年比プラスとなった。路面店は客数も前年比増加で推移しており、高価格帯商品の販売も好調。
【外食チェーン】

百貨店販売は高額品中心に前年比減少。百貨店の4月の売上高は、既存店ベースで前年比12%の減少となり、前回97年4月の前年比14%よりも減少幅はわずかながら小さくなった。

百貨店売上高（税抜き）



季節商品などのファッション系衣料品については、前年比数%程度までに回復しているものの、宝飾品や呉服等は前年比3割程度であり、いまだ前年比を回復していない。改善傾向にはあるものの、5月に入ってからペースが緩やかになっているような感がある。
【百貨店A】

ゴールデンウィークや母の日などのイベントが終わったことなどから一服感が出ている感がある。ただ、肌着や紳士服、夏物などが動き出しており、回復基調であることには変わらないと思う。
【百貨店B】